



八幡 有城 さん

●やはた・ゆうき 昨年7月から花き農家としてスタートを切る。県立農業大学校花き専攻を卒業後、福島県にある矢祭園芸で研修生として生産技術と農業経営を本格的に学ぶ。花が趣味で、花に取り組むには1日24時間でも足りないという。「熱しにくく、冷めにくい性格」と自己分析する。「型破りでも、常識にとらわれず、新しいことにチャレンジし続けることをモットーとする23歳。血液型A型のかに座。栗木田在住。

県立農業大学校で花の基礎を学んだ後、さらに自分を磨くため、福島県にある有限会社矢祭園芸で1年3ヶ月ほどの修行を積んだ。次世代を担う若者の育成にも力を入れている。矢祭園芸では、毎年多くの研修生が花の生産から経営までを学んでいる。有城さんもそこで同じく花き農家を志す仲間と互いに鍛え合いながら、知識と技術を磨いた。

一意識しているのは、決められた作業の中で、どれだけ遊び心をもつてやれるかということ」。そう語りながら、有城さんは目を輝かす。遊び心の中から生み出される新たな発想を大切だと考えているからだ。今、構想しているのは花の生産から、鉢のデザイン、パッケージまで、商品としての「花」を総合的にデザインし、販売すること。そして消費者を魅了する商品をつくることが近い将来の夢だ。

型にはまらない、新しいスタイルを目指し、遊び心あふれる農業家は、どんな花を咲かせていくのだろう。

も驚かされる。負けてはいられないという気持ちで、有城さんの花への情熱はさらに燃えあがる。

興味を持つたことに対しても、とことんまで熱中してしまったその性格から、花のことになると父ともたびたび衝突してしまうという。父が積み重ねてきた経験と、自身が思い描く理想とがぶつかり合う。覚悟はしていたが、譲れない花への思いがある。そのためなら、真正面からでもぶつかっていく。そんな姿勢からも、有城さんの花にかける情熱が伝わってくる。

型破りなくらい遊び心を持ち続けることが農業家としての自分のスタイル

A portrait of a young man with long, straight brown hair, smiling at the camera. He is wearing a dark t-shirt. The background is blurred, showing what appears to be an indoor setting.

父

の真似をして遊んでいたことから始まつた花の栽培が、いつ來の夢となり、そして職業となつてゐる。家らではなく、花にかけついがあるからこそ、を選んだのだ。

も驚かされる。負けてはいら
れないという気持ちで、有城
さんの花への情熱はさらに燃
えあがる。

A logo consisting of a stylized American flag design on the left and the text "PRINTED WITH SOY INK" on the right.